



比較的暑い9月でしたが、3連休を過ぎたあたりから標高1200mの浪合パークではようやく秋の足音が近づいてきました。

日の入り過ぎの午後6時頃からグッと気温が下がり始めて夜は16℃程になってきて、雨だとさらに気温は低くなり、スタッフはフリースやアウターの準備を始めています。

公園内のもみじが少しずつ紅葉し始め、10月の後半から11月の初めの頃には見頃になります。

さて、9月の「中秋」は秋の十五夜を楽しむものですが、10月の月も愛でて初めて「秋の月見」とするという風習が日本にはあります。10月に愛でるのは「十三夜」。

これを「後の月」と呼びます。中秋の名月を別名「芋名月」後の月を「栗名月」と呼び、それぞれ旬を迎える作物に由来しています。

10月の夜空

- 3日(木) ● 新月
- 8日(火) (二十四節気) 寒露
- ◎りゅう座流星群が極大
- 11日(金) ● 上弦
- 15日(火) 「後の月(十三夜)」
- 17日(木) ● 満月
- 20日(日) 秋の土用の入り
- 21日(月) オリオン座流星群が極大
- 23日(木) (二十四節気) 霜降
- 24日(金) ● 下弦



10月オススメ星座

- ・やぎ・みずがめ・うお
- ・みなみのうお・ペガサス
- ・ペルセウス・アンドロメダ
- ・カシオペヤ・ケフェウス



今月見頃の天体

- 散開星団 ペルセウス座二重星団
- 球状星団 M15 (ペガサス)・M2 (みずがめ)
- 惑星状星雲 らせん状星雲 (みずがめ座)
- 銀河 M31 (アンドロメダ銀河)・M33

今月の天体イベント①

ツーチンシャン (紫金山) ATLAS彗星

2023年1月に中国の紫金山天文台が発見した彗星でこの名が付けました。彗星は太陽系の天体ですが、地球などの惑星と違い太陽を周回する軌道が楕円や放物線となります。彗星が太陽に最も近づく日を「近日点」と呼びます。ツーチンシャン彗星は9月28日がこれにあたり、その後10月に日本からも肉眼で見られることが期待されています。

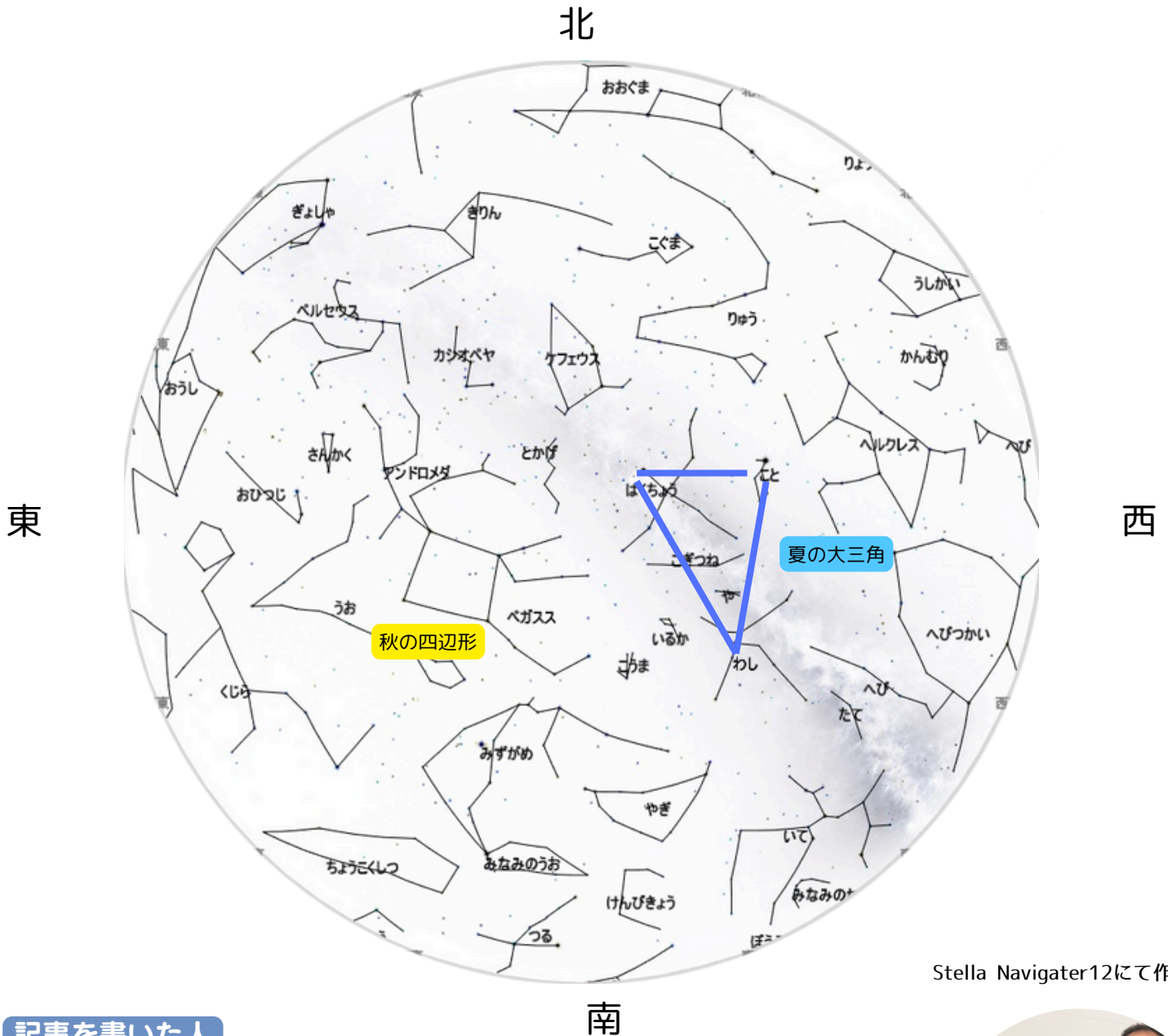
この彗星、近日点の距離が近い(太陽にかなり近づく)ため、崩壊してしまうと予測する科学者もいますが、無事通過できれば、10月初めには明け方の東の空に見え、その後、10月12日頃から夕方の西の空に尾を引いた姿を見せてくれると期待されます。

「りゅう座流星群」「オリオン座流星群」

秋から冬にかけて、中規模の流星群が続きます。

「りゅう座流星群」は10月8日22時が極大で、月明かりもなく好条件です。この流星群の放射点
はこと座のベガ近くなので、天の川とともに楽しめそうです。

「オリオン座流星群」は極大が21日。オリオン座が東の地平線に上がってくる22時過ぎが見頃
になりますが、今年はお隣のふたご座に満月過ぎの明るい月が輝きます。それでもこれから迎える
冬に先だって横向きに上がってくるオリオン座と流れ星を楽しみたいですね。



Stella Navigator12にて作成

記事を書いた人

星空案内人認定制度により、2015年に「星空案内人」となる。
飯田市美術博物館プラネタリウム解説員として5年、阿智村
「天空の楽園 ヘブンスそのはら」にて星空ガイドを6年担当。
わかりやすい解説、もっと星を見たくなる、知りたくなる星空ガイドを
心がける。小さな天文学者の会会員。
長野県プラネタリウム連絡協議会会員。



星空案内人 川手俊美